

聖書によると、神様は土で人間を造り、ご自分の息吹を吹き入れて生きるものとさ  
 れましたが、高慢な心で神様に背いて罪を犯した人間は、その罪のために神様の前  
 から追い払われました。その時、神様は人間に対して「塵にすぎないお前は塵に返  
 る。」とおっしゃいました。それは人間を呪う言葉ではなく、人間の愚かな高慢に対  
 する戒めでした。この高慢こそが、人間のあらゆる罪の源であることを示す言葉  
 だと思います。つまり、人間は神様の愛によって命をいただきましたが、この高慢  
 によって命を失い、塵に返ってしまうものとなるということでしょう。そういう  
 意味かもしれませんが、ヘブライ語の「人間」と「謙遜」という言葉は、「土」とい  
 う言葉からできたとされます。わたしたちは自分が必ず土に返っていくものであ  
 るのを悟り、謙遜な心で自分をへりくだらないと、罪に自分を任せ、その罪の中で  
 神様からいただきたいのちや、神様との絆も失ってしまうのです。

今日の福音で、イエス様は食事のためにファリサイ派のある議員の家に行かれまし  
 た。そこで招待された人たちが上席を選んでいる様子に気づいて、婚宴の例え話  
 を聞かせ、さらに、「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」  
 とおっしゃいました。そして、ご自分を招待してくれた人にも、食事を催す時、誰  
 を招くべきかについて一言おっしゃいました。それは、自分と様々な形の縁のある  
 人たちや、世の中のあらゆる形の力を持っている人たちではなく、むしろ、「貧し  
 い人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人」など、いわゆる、世の  
 中で弱い立場にある人たちを招くべきである、と話されました。福音の最後にイエス  
 様は、「その人たちはお返しができないから、あなたは幸いです。正しい人たちが

復活するとき、あなたは報われる。」と言われましたが、その報いは神様から与えられるでしょう。

今日の福音のテーマは、「上席を選ぶ人々たちへの例え話」と、「弱い立場の人たちを招きなさい」という教えに分けられますが、いずれも「謙遜」について語っています。イエス様はまず、「上席を選ぶ人々たちへの例え話」を通して、わたしたちが求めなければならない「真の上席」について教えられました。それは、みんなが避けたがるに違いない「末席」で、それを選ぶのは、単に「恥をかかないようにするため」でなく、「もっと積極的に自分を低くするため」なのです。そういう謙遜なふるまいに応じた相応しい扱いや報い、つまり、自分の謙遜なふるまいが認められるかどうかは重要ではありません。大事なことは自分をへりくだることそのものであり、それはイエス様に従うわたしたちがしっかりと身に付けなければならない大切な姿勢です。なぜなら、イエス様は御父である神様の救いの計画を完成するため、自らを低くして人となられ、しかも、十字架の恥まで受け入れられました。その謙遜によって、イエス様は罪深い人間を神様への信仰の道に導いてくださり、その信仰を通して人間は神様を敬い、また、あがめるようになったのです。こうしてイエス様は、今日の第一朗読に書いてある「主はへりくだる人によってあがめられる」ことを自ら証しされたのです。そう考えたら、イエス様の十字架のあるところこそ、わたしたちが選ばねばならない「真の上席」に違いありません。

それではイエス様の十字架のあるところとは、どんなところでしょうか。それは、

きょう ふくいん さま まね ひと おし わ さま  
 今日の福音のイエス様を招いてくれた人への教えからよく分かります。イエス様は、  
 えんかい もよお ゆうじん きょうだい しんるい きんじょ かねも まず ひと  
 「宴会を催すときには、友人や兄弟、親類や近所の金持ちではなく、貧しい人、  
 からだ ふじゆう ひと あし ふじゆう ひと め み ひと まね  
 体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。」とおっしゃい  
 ました。じつ さま さま よげんとお まず ひと ふくいん つ し と  
 ました。実に、イエス様はイザヤの預言通り、「貧しい人に福音を告げ知らせ、捕ら  
 われている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を  
 じゆう ひと かいほう め み ひと しりよく かいふく つ あっばく ひと  
 自由にするために」来られました。イエス様はいつも罪びとやあらゆる病気のある人  
 たちの友となられ、かれらのそばにいてくださいました。い か かん かん  
 言い換えれば、彼らのいると  
 ころにイエス様は共におられ、かれらのために自ら宴会の主となってくださいましたわけ  
 です。それだけではなく、イエス様はご自分の十字架上で永遠の命の糧を用意し、  
 しん ひとびと ば まね さま じぶん まね  
 信じる人々をその場へと招いてくださいました。そんなイエス様が、ご自分を招いて  
 くれたこのファリサイ派の議員に、は ぎいん まず ひと からだ ふじゆう ひと あし ふじゆう ひと  
 「貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、  
 め み ひと まね ぜんぜんけんとうちが  
 目の見えない人を招きなさい。」とおっしゃったのは全然見当違いなことではないでし  
 ょう。よ なか よわ ひと とも さま ひと とも  
 よう。世の中の弱い人たちの友であるイエス様は、その人たちがいるところに共にお  
 られます。そこにイエス様の十字架があり、イエス様はそこにわたしたちを招いてお  
 られるのです。ですから、わたしたちもイエス様のように自分をへりくだって、よ  
 なか よわ ひと とも い い  
 中の弱い人たちの友となって生きて行くべきです。

さま きょう せいたい とお ちから  
 イエス様はそんなわたしたちのために、今日もご聖体を通して力づけてくださ  
 います。きょう だいにろうどく し と そうごん ことば かみさま くに かた  
 ます。今日の第二朗読で、使徒パウロはとても荘厳な言葉で神様の国について語って  
 いますが、このミサを通してわたしたちはこの世からすでに神様の国の永遠の宴会に  
 まね えんかい ひと  
 招かれています。わたしたちがその宴会にふさわしい人となることができるよう、

このミサの中なかでお祈りおいの致いたしましょう。